

牛肉

- 輸入牛肉等関税収入については、平成3年(1991年)度からの牛肉輸入自由化に対応するため、当該年度の輸入牛肉等関税収入相当額を肉用子牛等対策費として、肉用牛生産の合理化等に係る施策の財源に充当している。
- 具体的には、
 - ① 肉用牛の繁殖農家に対して、子牛価格が保証基準価格を下回った場合に補給金を交付する制度
 - ② 肉用牛の肥育農家に対して、収益性が悪化した場合に損失の一部を補填する事業
 - ③ その他肉用牛生産の合理化や食肉の流通の合理化のための対策などの財源として使われている。

【生産量】

国内生産量 (2018年度)	主な生産地 (飼養頭数ベース:2019年2月1日現在)		
333千トン (生産量シェア)	北海道 (21%)	鹿児島県 (14%)	宮崎県 (10%)

出典:食肉流通統計
畜産統計

【輸入量】

輸入量(2018年度)	主な輸入先国(2018年度)		
620千トン (輸入量シェア)	豪州 (50%)	米国 (41%)	カナダ (4%)

【価格】

出典:貿易統計

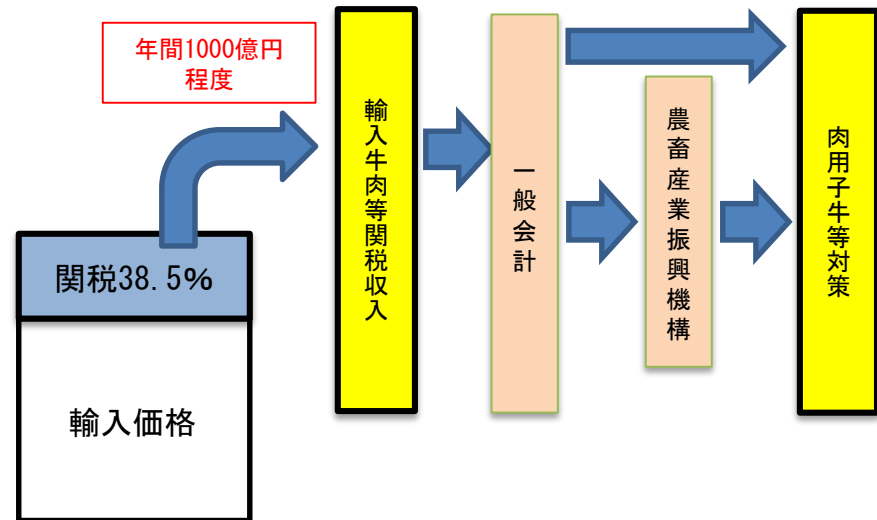
価格の推移(円/kg)					
年度	2014	2015	2016	2017	2018
国内(和牛)	2,977	3,580	3,821	3,673	3,759
国内(交雑)	1,893	2,347	2,350	2,047	2,243
国内(ホル)	1,251	1,561	1,456	1,450	1,504
国際価格	633	654	573	613	635

(注)部分肉ベース、国内は去勢牛の価格
国内価格:中央10市場平均
国際価格:CIF平均単価

出典:食肉流通統計
貿易統計

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 38.5%	二次税率 —	ウルグアイ・ラウンドにおける関係国との協議結果に基づき、協定税率(50%)よりも低い38.5%の暫定税率を設定



○ 牛肉の関税緊急措置

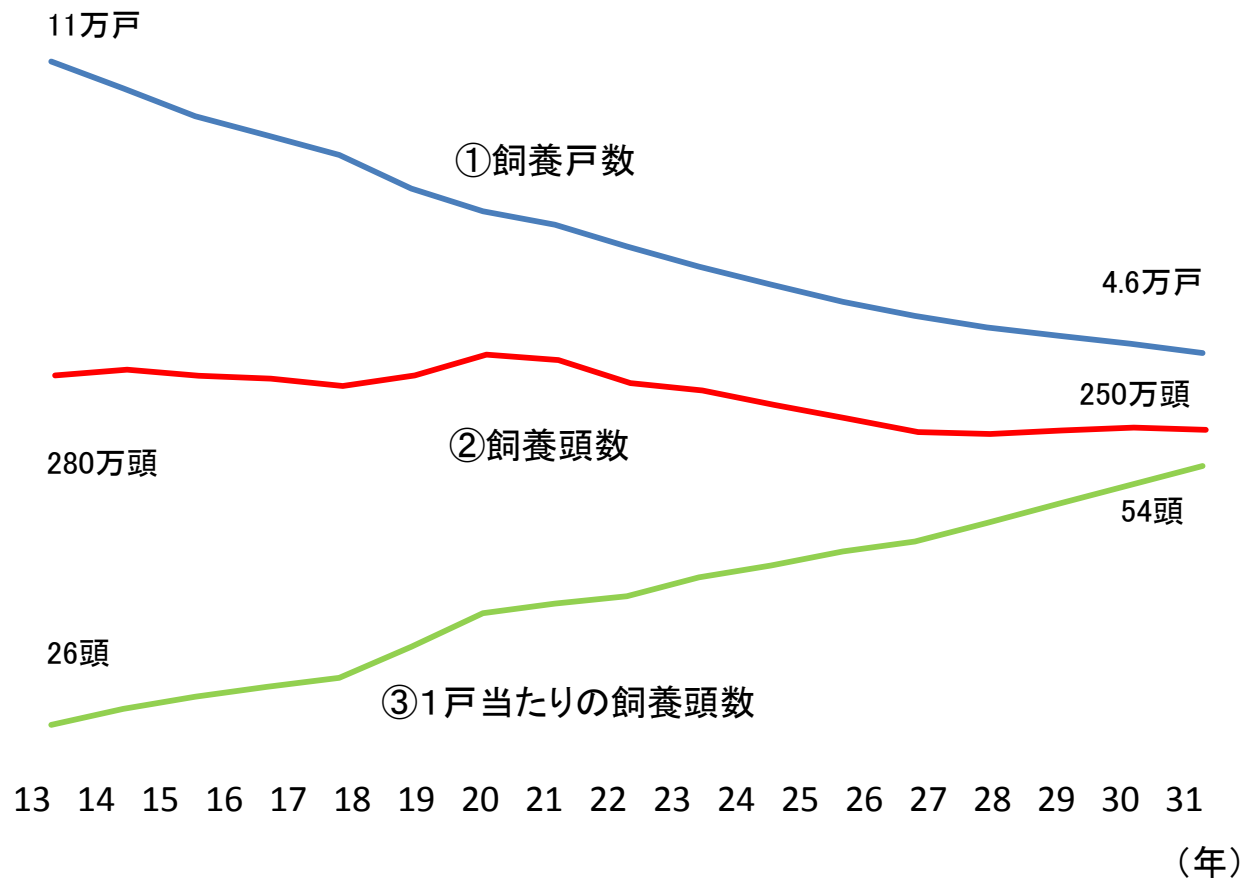
輸入数量が一定水準を超えて急増した場合、関税をWTO上の譲許水準(50%)に戻す緊急措置が講じられている。

肉用牛の飼養動向

①飼養戸数は、近年減少傾向で推移しており、18年間で約5割減少。
(13年:11万戸→31年:4.6万戸)

②飼養頭数は、近年ほぼ横ばいで推移している。
(13年:280万頭→31年:250万頭)

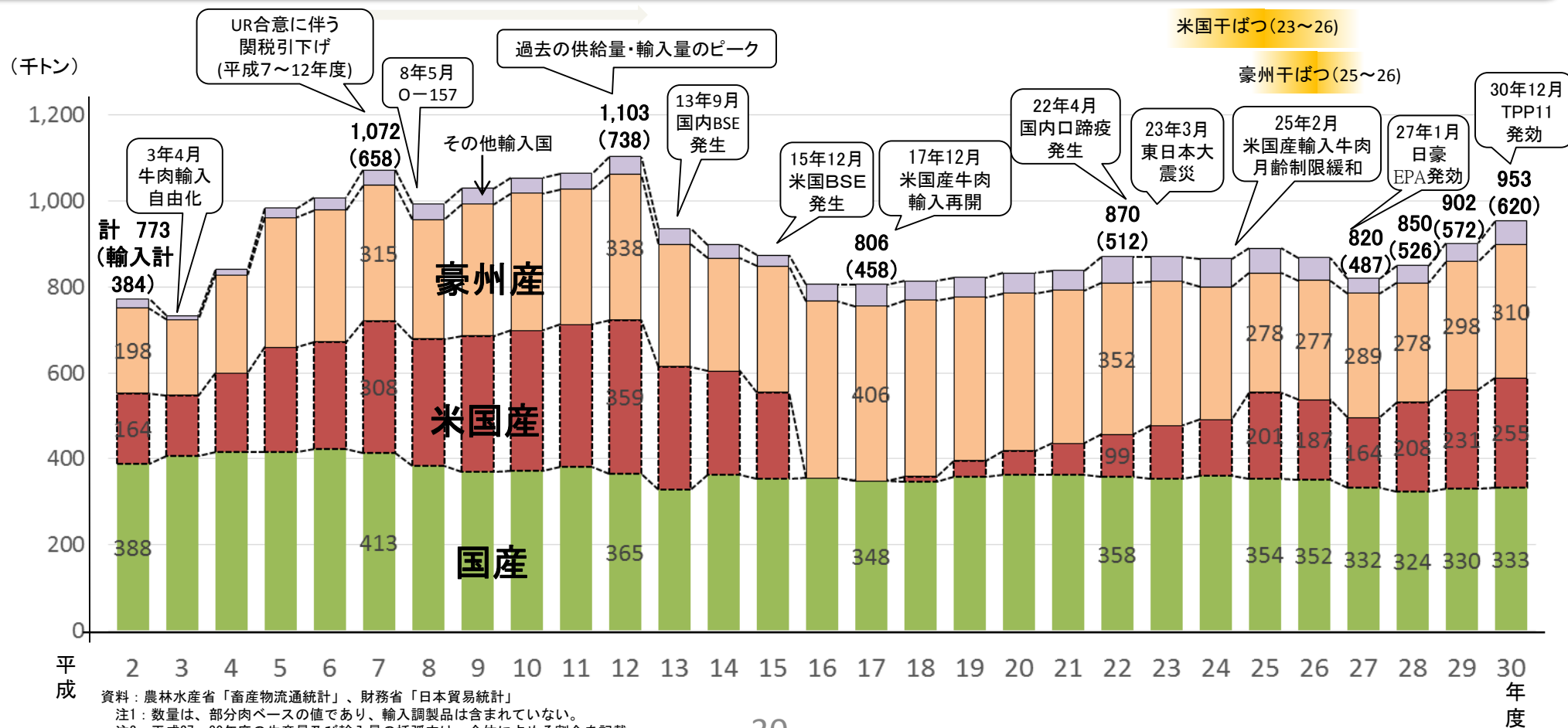
③1戸当たりの飼養頭数は着実に増加しており、18年間で約2.1倍の増加。
(13年:26頭→31年:54頭)



出典:農林水産省「畜産統計」

牛肉の供給量(生産量+輸入量)の推移

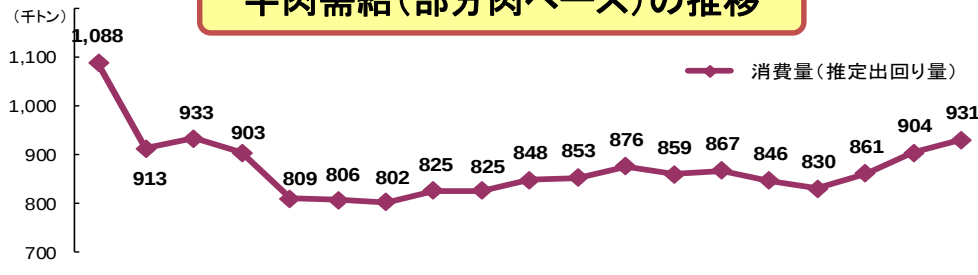
- ・ 国内生産量は、中長期にわたり、35万トン～40万トン前後のレンジを中心に安定的に推移。
- ・ 輸入量は、平成3年の牛肉輸入自由化以降、輸入牛肉価格の低下等を背景に増加傾向で推移し、平成12年度には73万8千トンとなった。(過去の供給量・輸入量のピーク)
- ・ しかし、平成13年の国内BSEの発生や、平成15年の米国BSEの発生(輸入停止)に伴う牛肉消費の減少から輸入量は大きく低下し、その後の輸入量は50万トン前後で推移。
- ・ この結果、牛肉の供給量(生産量+輸入量)は、過去には輸入量の変動に大きく影響を受けてきたが、近年は概ね横ばいで推移。
- ・ 28年度から、外食等における堅調な需要を背景に輸入量が増加。



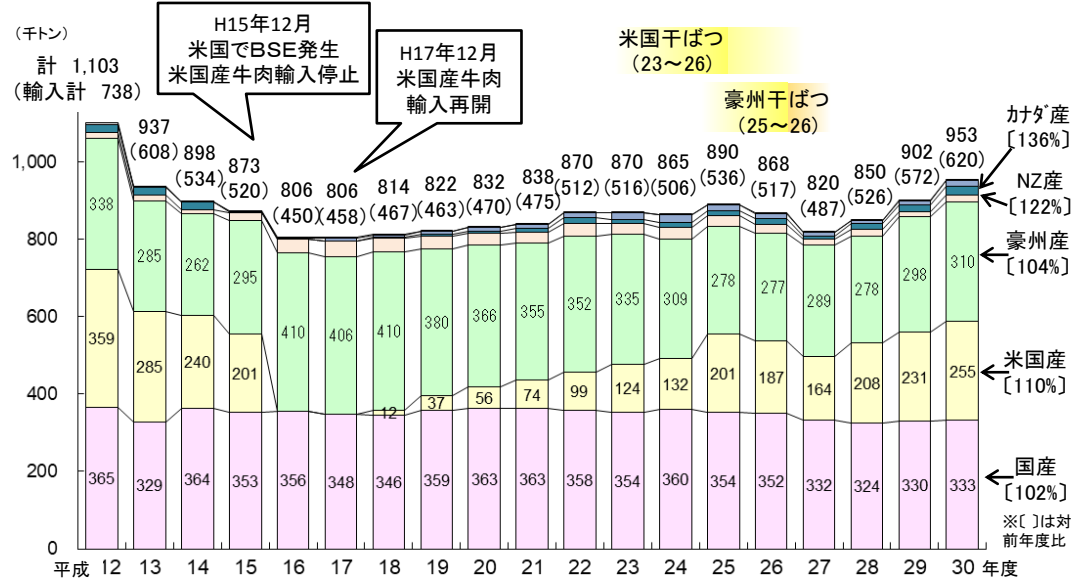
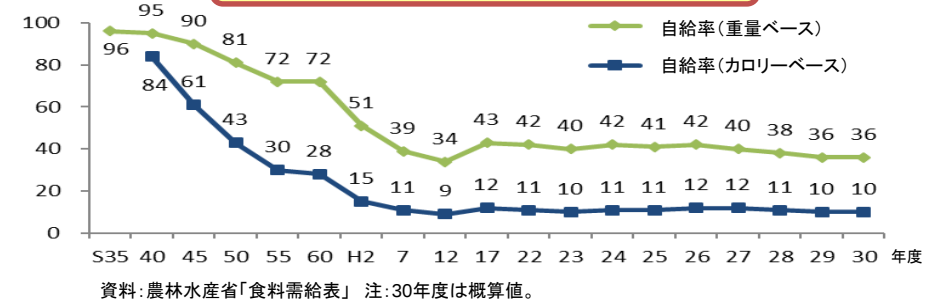
牛肉の需給動向

- 牛肉の消費量(推定出回り量)は、我が国や米国でのBSEの発生により、大幅に減少した後、回復基調で推移。最近では、米国及び豪州における干ばつの影響を受けて、平成26～27年度にかけて、輸入量が減少し、需給が引き締まって推移。その後、米国及び豪州の牛肉生産が回復傾向となり、牛肉需要の一層の高まりを背景に輸入量が増加したこと等から、平成30年度の消費量は93万トンと、米国でのBSE発生前の平成14年度と同程度まで回復。
- 国内生産量は、近年、減少傾向で推移していたが、平成29年度からは回復に転じ、平成30年度は33万トンとなった。
- 牛肉の自給率(重量ベース)は、近年40%前後で推移。

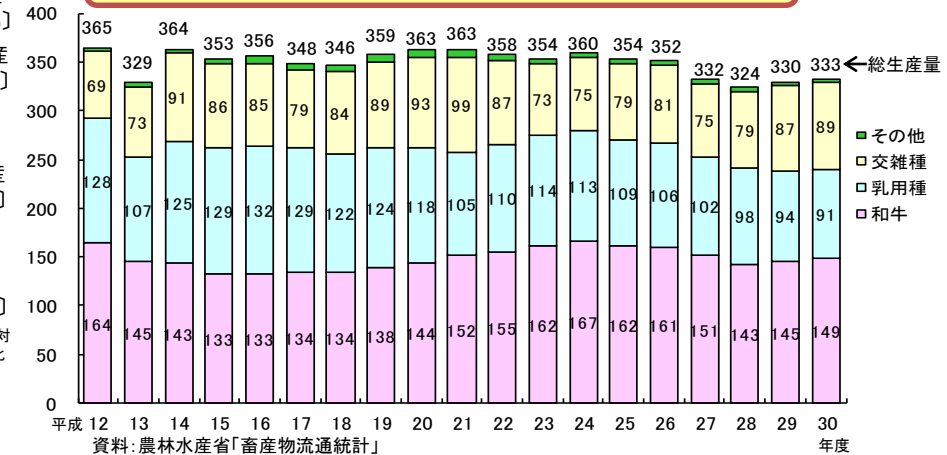
牛肉需給(部分肉ベース)の推移



牛肉の自給率の推移

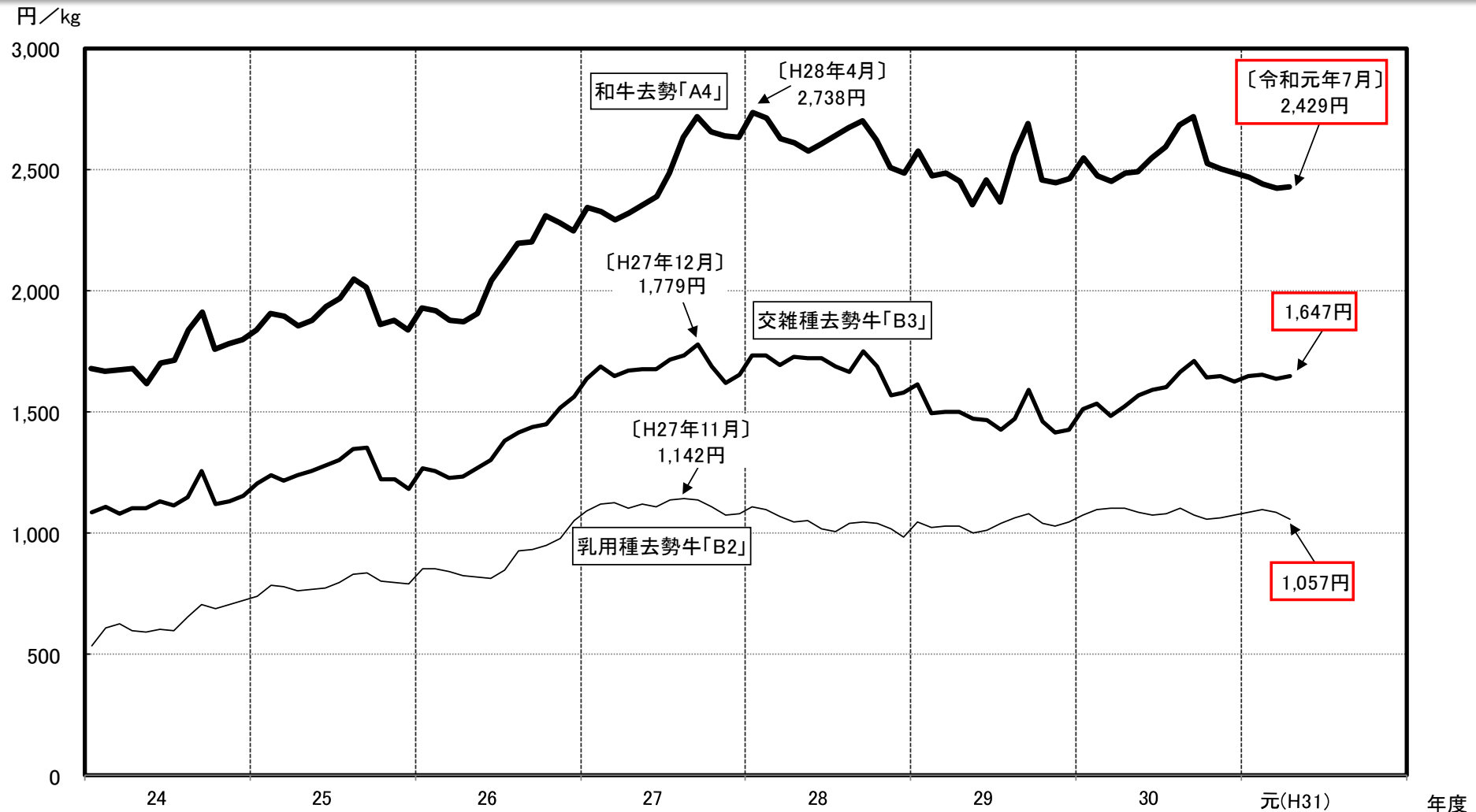


品種別牛肉生産量(部分肉ベース)の推移



牛枝肉卸売価格(中央10市場)の推移

- 牛枝肉卸売価格は、景気の低迷等を背景として、平成19年度第4四半期以降、特に価格の高い去勢和牛の枝肉価格が低下。
- 平成23年度後半からは上昇に転じ、生産量の減少等を背景に和牛は平成28年度、交雑種は平成27～28年度、乳用種は平成27年度にそれぞれ過去最高水準まで高騰した。
- 平成29年度以降は、それぞれの最高水準を下回っているものの、依然として高水準で推移している。

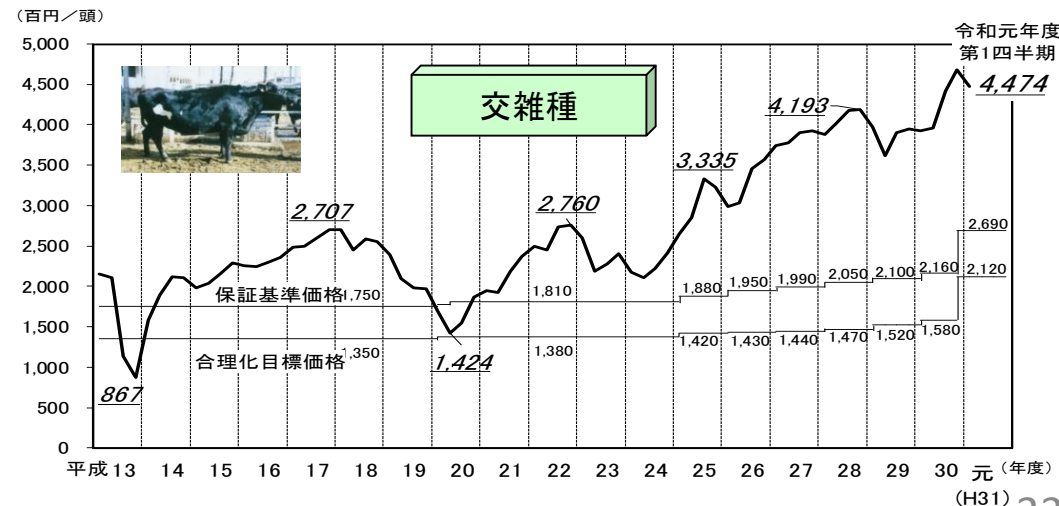
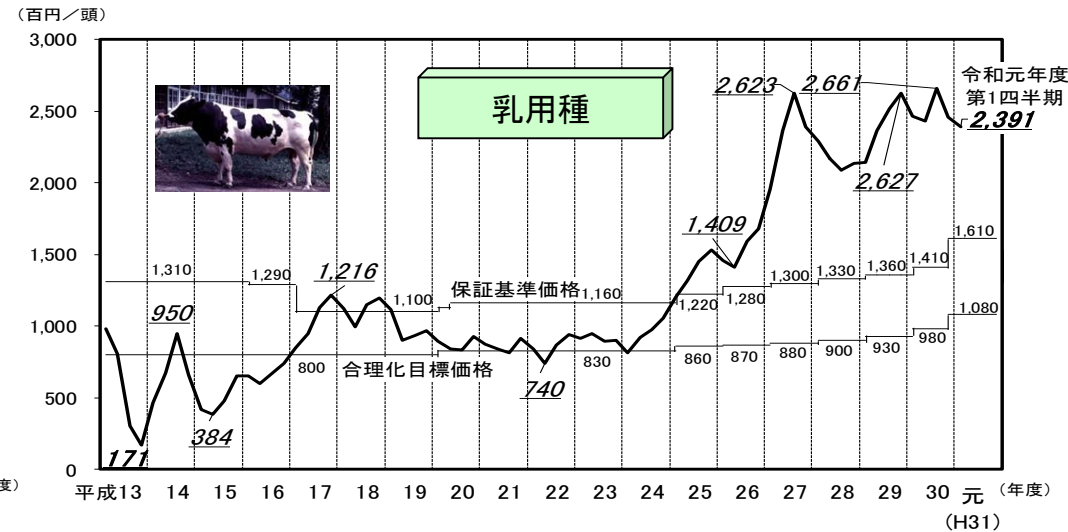
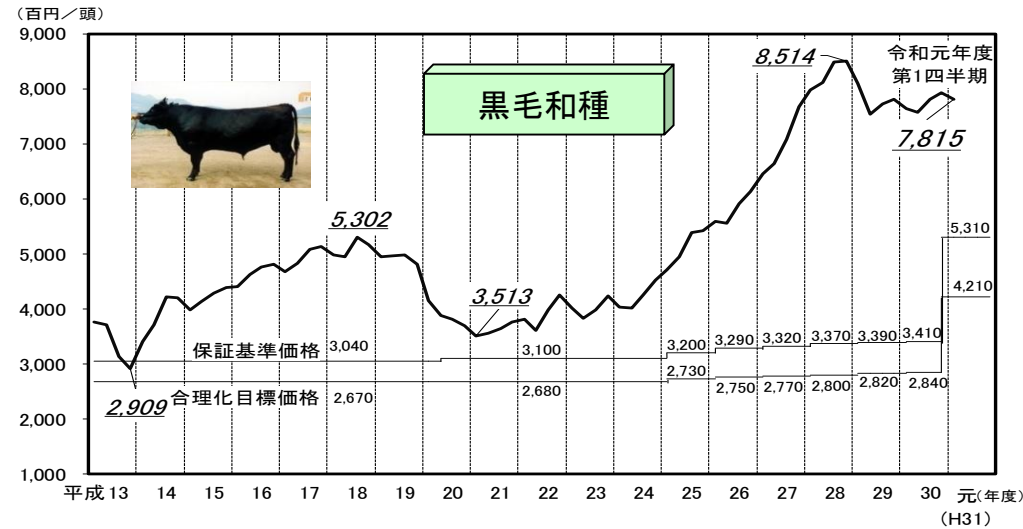


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

注：()内は対前年同月比

肉用子牛価格の推移

- 肥育もと牛となる肉用子牛の取引価格は、各品種とも平成13年度の国内BSEの発生等の影響により大きく下落したが、その後、回復傾向で推移。
- 平成19年度以降は、枝肉価格の低下に伴い低下したが、繁殖雌牛の減少により子牛の分娩頭数が減少したことに加え、枝肉価格が上昇したことから、平成24年度以降は肉用子牛価格も上昇。平成28年度から繁殖雌牛頭数は増加に転じているものの、依然として高水準で推移。



○ 牛肉に係る国境措置

- i) ウルグアイ・ラウンド農業交渉において、牛肉の関税率について、国際的に認められた関税水準（譲許税率：50.0%）（1994年度）から38.5%（2000年度）まで段階的に引き下げることに合意した。

一方、その代償として、輸入急増の歯止めとなるよう、輸入数量が法定の基準に達した場合、関税率を譲許税率（50.0%）に戻す牛肉の関税緊急措置がパッケージで導入されている。

- ii) 本措置は、冷蔵牛肉、冷凍牛肉の各々について、年度初めから各月末までの累計輸入量が、四半期ごとに設定される法定の発動基準数量（前年度同期の輸入量の117%※）を超過した場合、具体的には、

① 全世界からの各月末までの累計輸入量が、発動基準数量を超え、かつ、

② 米国等、我が国との間でEPAが発効しておらず、EPA税率の適用を受けない牛肉の各月末までの累計輸入量が発動基準数量を超えている場合、年度末まで（第4四半期に超過した場合は翌年度の第1四半期まで）、関税率を現行の38.5%から譲許税率である50.0%に戻す仕組みとなっている。

※ BSEの影響による消費減からの輸入量の回復にブレーキをかけないようにするとの観点から、平成18年度以降、発動基準数量の調整ルール（いわゆる「BSE特例」）が導入されており、

① 対前年度同期の輸入量の117%、

又は

② 平成14・15年度の同期の平均輸入量の117%のいずれか高い方が発動基準数量となる。

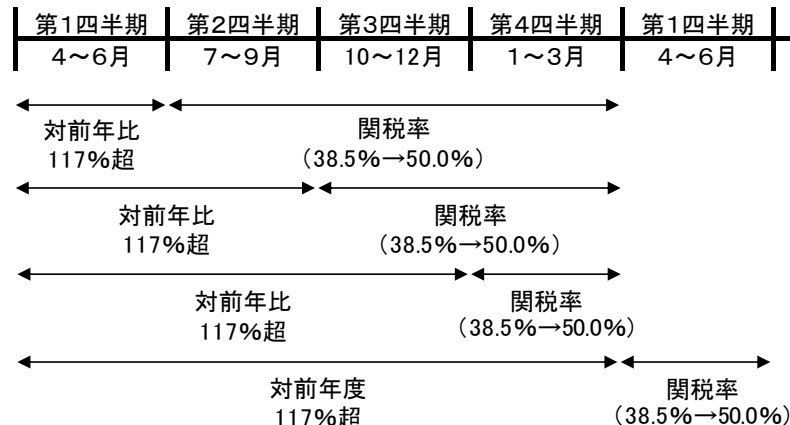
- iii) TPP11協定の発効に伴い、メキシコ、シンガポール、ニュージーランド、カナダ、豪州は平成30年12月30日、ベトナムは平成31年1月14日からTPP11税率が適用、日EU・EPA発効に伴い、EUは、平成31年2月1日から日EU・EPA税率が適用。

○ 牛肉の関税率

(単位: %)

年度 (西暦)	平成6 (1994)	7 (1995)	8 (1996)	9 (1997)	10 (1998)	11 (1999)	12 ~ 元 (2000~2019)
関税率	50.0	48.1	46.2	44.3	42.3	40.4	38.5

○ 緊急措置の発動例



(注) 実際の輸入と輸入統計公表までにはタイムラグ(約1か月)が存在するため、四半期当初からの発動とはならない場合がある。

○ 緊急措置の発動実績

	(発動前)	(発動後)
※冷凍牛肉		
平成7年8月1日～平成8年3月31日	48.1%	→ 50.0%
平成8年8月1日～平成9年3月31日	46.2%	→ 50.0%
平成29年8月1日～平成30年3月31日	38.5%	→ 50.0%
※生鮮・冷蔵牛肉		
平成15年8月1日～平成16年3月31日	38.5%	→ 50.0%

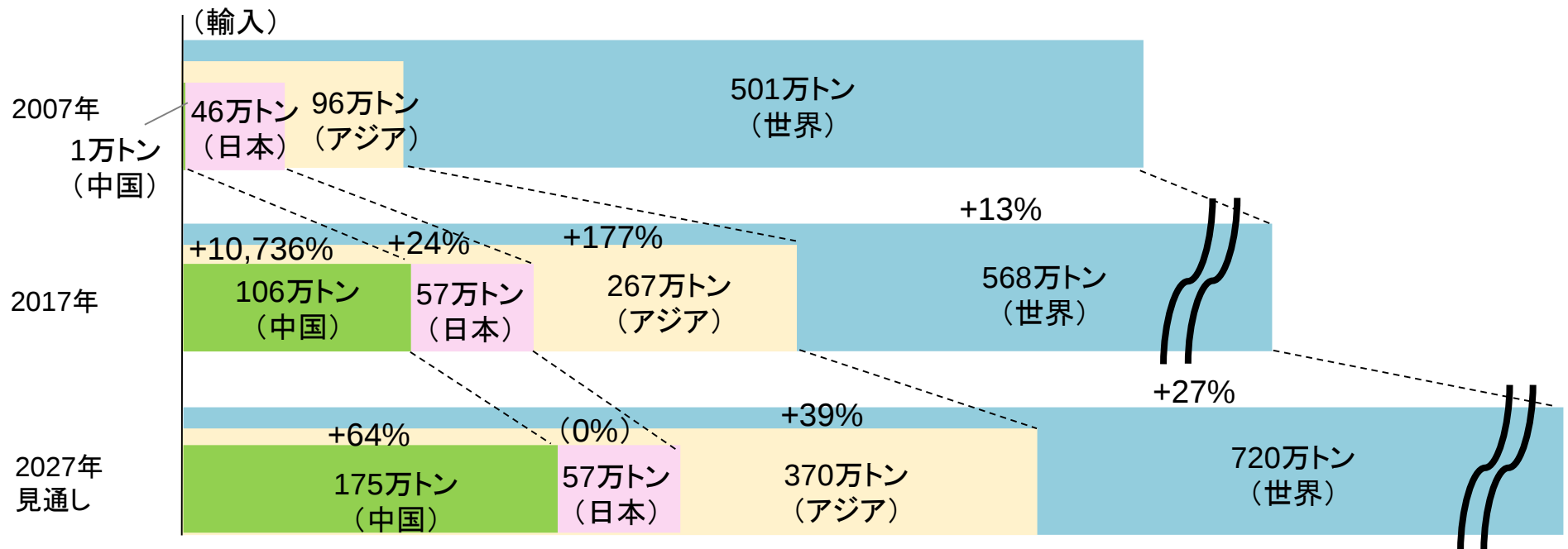
○ 緊急措置の発動基準(令和元年度(平成31年度))

(単位: トン)

	生鮮等牛肉		冷凍牛肉	
	発動基準数量	発動基準数量 (協定対象外)	発動基準数量	発動基準数量 (協定対象外)
第1四半期	86,020	40,764	105,413	37,317
第1～2四半期	171,475	83,735	225,345	81,213
第1～3四半期	255,016	123,725	318,122	116,424
第1～4四半期	326,485	158,518	398,627	142,124

世界とアジア地域の牛肉の輸入状況

- ・ 2007年の世界の牛肉輸入量は501万トン、うちアジア地域が96万トン、日本が46万トン。
- ・ この10年間で、中国の牛肉輸入量は106倍、アジアは2.8倍に急増し、2017年では我が国と中国で世界の輸入の3割を占める状況。
- ・ 2027年の世界の牛肉輸入量は720万トン(2017年と比べて+27%)、うち中国が175万トンとの見通し。
- ・ このように、世界的に牛肉需要が急激に伸び、関係者からは、いつまでも我が国が思うままに牛肉を輸入出来る環境になく、買い負けがおきるという声。このため、国内生産をしっかりと振興することが重要。



出典: USDA “Livestock and Poultry: World Markets and Trade” “Long-term Projections 2019.3” (部分肉ベースに換算)

財務省「貿易統計」

※ 本資料中の「アジア」は、2007年は日本、韓国、台湾、香港、マレーシア、フィリピンの計。2017年と2027年は、日本、韓国、台湾、中国、香港、フィリピン、インドネシア、マレーシア、その他アジアの計。

(USDA資料中の主要輸入国として明示されているアジアの国・地域を合算)

「中国」は、USDA資料中の中国、香港の計。

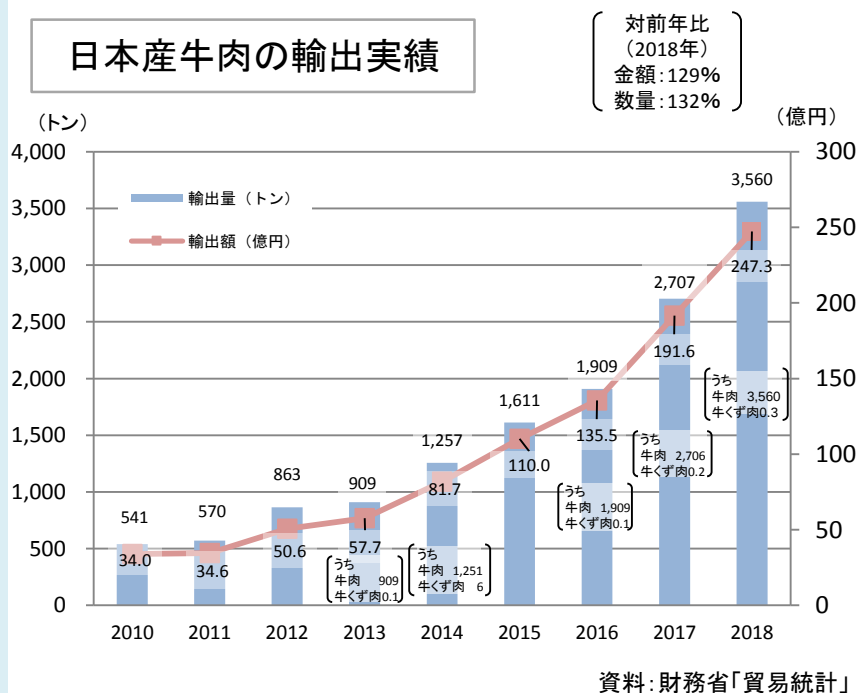
「世界」は、USDA資料中の主要牛肉輸入国の輸入量の合計。

「日本」は、貿易統計の数値(年度ベース)。なお、「日本」の2027年見通しは、2017年度の輸入実績を据え置いたもの。

国産牛肉の輸出について

- 牛肉の輸出については、我が国における口蹄疫発生、福島第一原子力発電所事故の影響により輸出が一時停止したこと等から、2008年から2011年は横ばいで推移していたが、2012年8月に対米輸出が再開し、好調に推移。
- 2018年の輸出実績は、2017年9月の台湾向け輸出解禁や和牛統一マークを活用したプロモーション等の効果により、247億円(3,560トン)と過去最高を更新。
- 2019年の輸出額目標250億円(4,000トン相当)達成に向け、2016年5月にとりまとめられた「農林水産業の輸出力強化戦略」に基づき、関係者が一体となって輸出拡大に取り組んでいるところ。

日本産牛肉の輸出実績



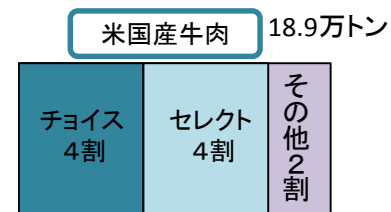
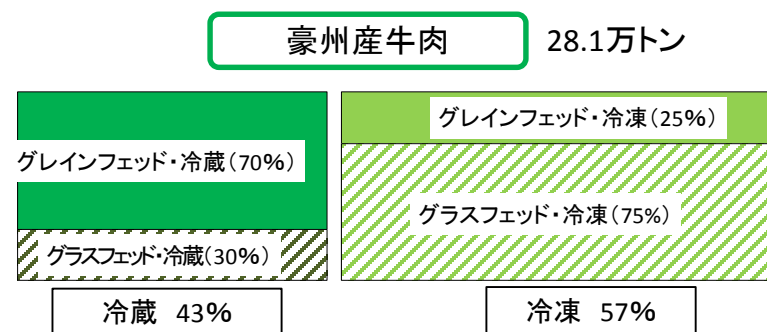
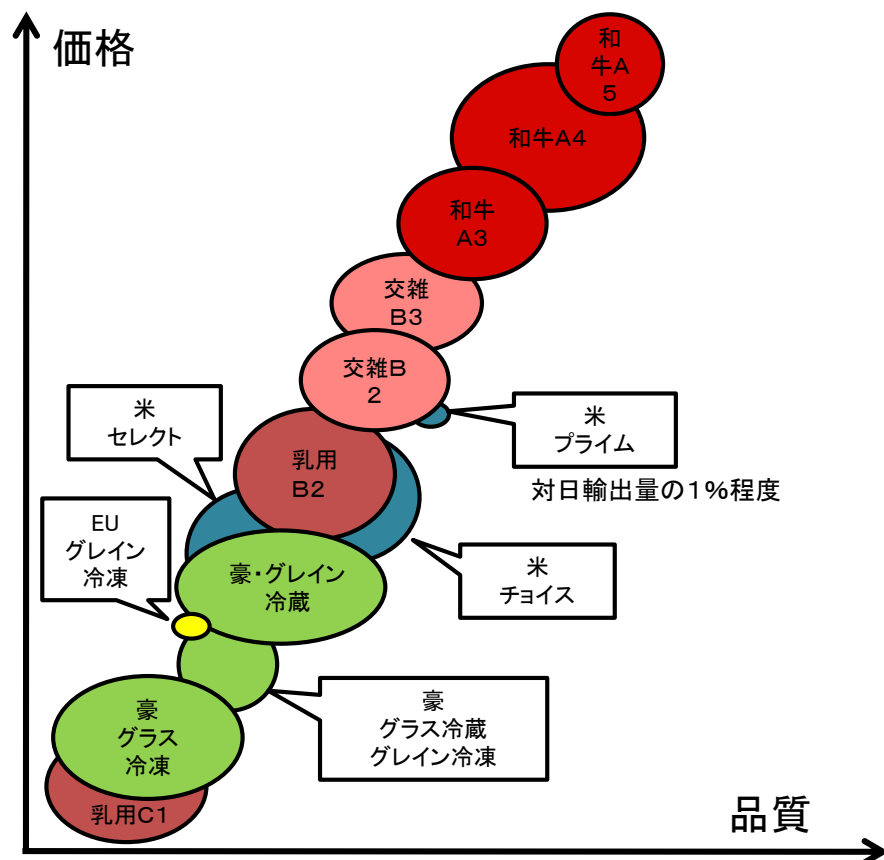
（牛肉）	衛生条件	関税率	2018年輸出量（トン）	2018年輸出額（億円）
米国	あり	・低関税枠（200トン）内税率：4.4セント/kg ・枠外税率：26.4%	3,560	247

輸出国・地域別の施設認定状況

2019.9 現在															
	米国	カナダ	香港	NZ	オーストラリア	アルゼンチン	ウルグアイ	EU	シンガポール	メキシコ	フィリピン	ブラジル	台湾	インドネシア	マレーシア
施設数	13	10	12	13	10	4	3	7	13	7	9	3	29	2	2
	UAE	カタール	バーレーン	マカオ	タイ	ミャンマー	ロシア等	ベトナム							
	4	5	5	66	70	50	4	65							

牛肉の品質・価格について

- 和牛・交雑種牛肉は、品質・価格面で輸入牛肉と差別化されており、競合の度合いは小さい。
- 乳用種(ホルスタイン種)牛肉は、
 - ① B2が米国産を中心に競合。
 - ② C1(主に廃用牛)が豪州産冷凍グラスフェッドを中心に競合。



資料: MLA、業界聞取り(米国産牛肉)
2014年次のデータ

牛肉関連製品の具体例

関税率 10～50%、161.50円/kg

ビーフカレー
21.3%

ビーフジャーキー
10%

コンビーフ
21.3%



(関税番号)

021020000 021099020 160210000 160220010
160250210 160250291 160250292 160250299
160250310 160250320 160250331 160250339
160250391 160250399 160250410 160250420
160250490 160250510 160250520 160250590
160250600 160250700 160250810 160250890
160250910 160250991 160250999 160300010

輸入量 0.5万トン
(米国シェア 2%)
輸入単価 850円/kg

牛タン、
ハラミ、
肝臓等



(関税番号) 020610011
020610019 020621000
020622000 020629010

輸入量 7.5万トン
(米国シェア 56%)
輸入単価 1,207円/kg

肥育素牛
38,250円/頭

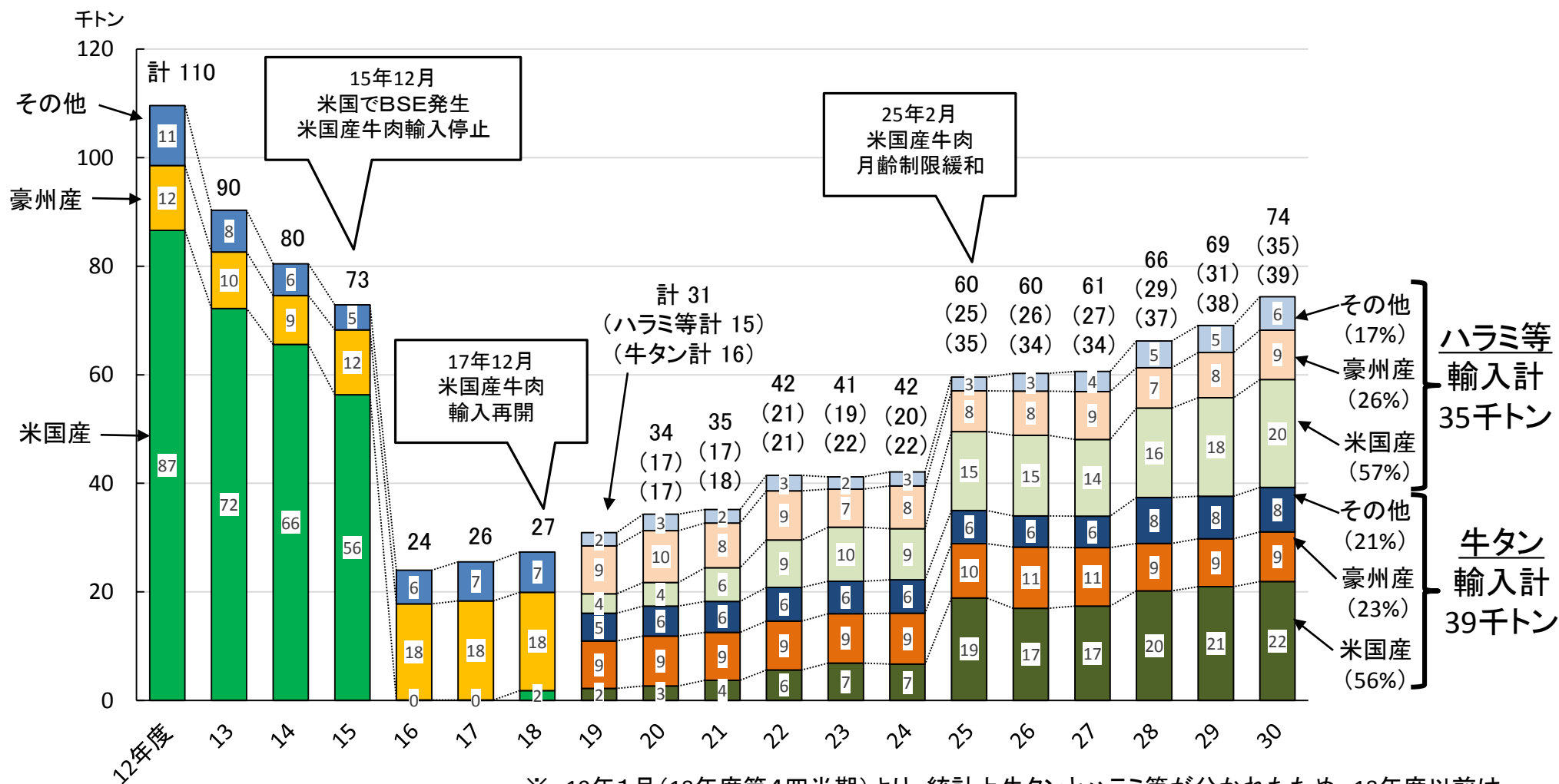


(関税番号)
010229100

輸入量 1.5万頭
(米国 輸入実績なし)
輸入単価 26.5万円/頭

牛タン・ハラミ等の輸入量の推移について

○ 牛タン及びハラミ等の輸入量は、平成15年12月の米国でのBSE発生の影響による減少以降、増加傾向で推移しており、米国からの輸入が半分以上を占めている現状。



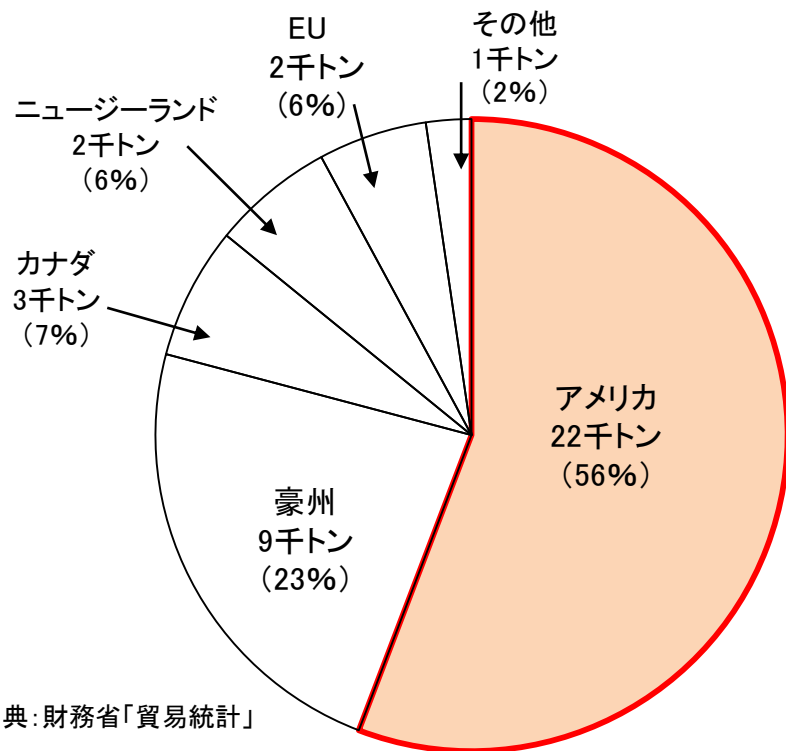
資料：財務省「日本貿易統計」

※ 19年1月(18年度第4四半期)より、統計上牛タンとハラミ等が分かれたため、18年度以前は牛タンとハラミ等の合計数量、19年度以降は牛タンとハラミ等の各々の輸入数量を示している。

牛タン・ハラミ等の国別輸入量

- 牛タン及びハラミ等の主要輸入国は、ともに米国であり、半分以上のシェアを占めている。
- 牛タン及びハラミ等ともに、国内供給量の大半を輸入で占めている状況。

平成30年度 牛タン輸入量 39千トン

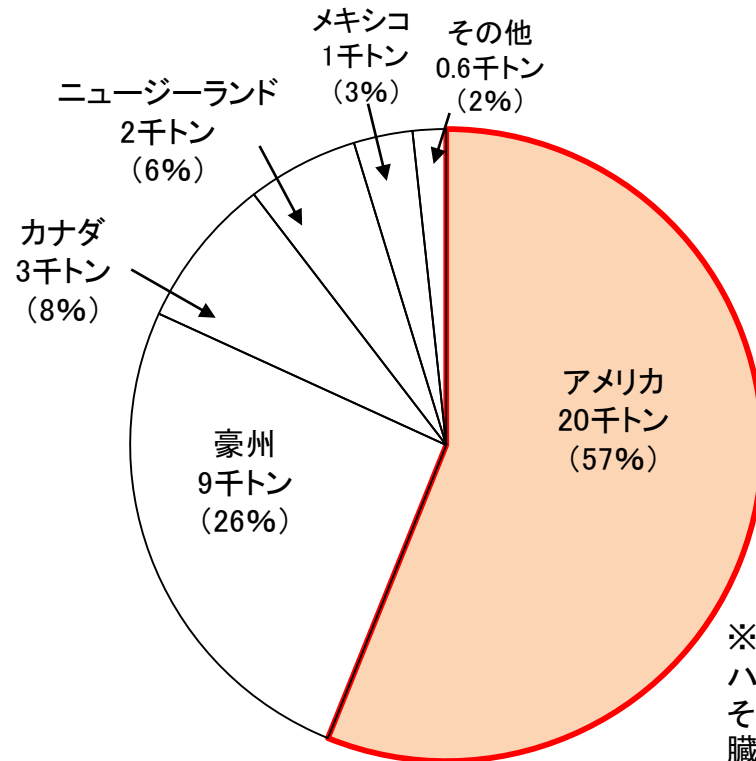


出典：財務省「貿易統計」

平成30年度 牛タン国内生産量約 1千トン
(供給量に占める割合 約3%)

(出典：農林水産省推計)

平成30年度 ハラミ等輸入量 35千トン



※ハラミ等には、ハラミ、サガリ、その他臓器(肝臓以外)を含む

平成30年度 牛ハラミ国内生産量約 3千トン
(供給量に占める割合 約8%)

(出典：農林水産省推計)

(参考：TPP合意内容)

【牛タン】 現行12.8%の関税を、初年度6.4%(▲50%)とし、以降毎年同じ割合で削減し、11年目に撤廃。

【ハラミ等】 現行12.8%の関税を、初年度6.4%(▲50%)とし、以降毎年同じ割合で削減し、11年目に撤廃。

(胃、腸などのいわゆる白モツは、現行の関税率が既に無税)

肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の概要

- ・ 肉用牛肥育経営の安定を図るため、畜産経営の安定に関する法律に基づき、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割を交付金として交付。
- ・ 標準的販売価格及び標準的生産費は、一又は二以上の都道府県の区域ごとに算出。

《制度の内容》

- ①負担割合 国：生産者＝3：1
(交付金のうち、1／4に相当する額は生産者の積立による積立金から支出)

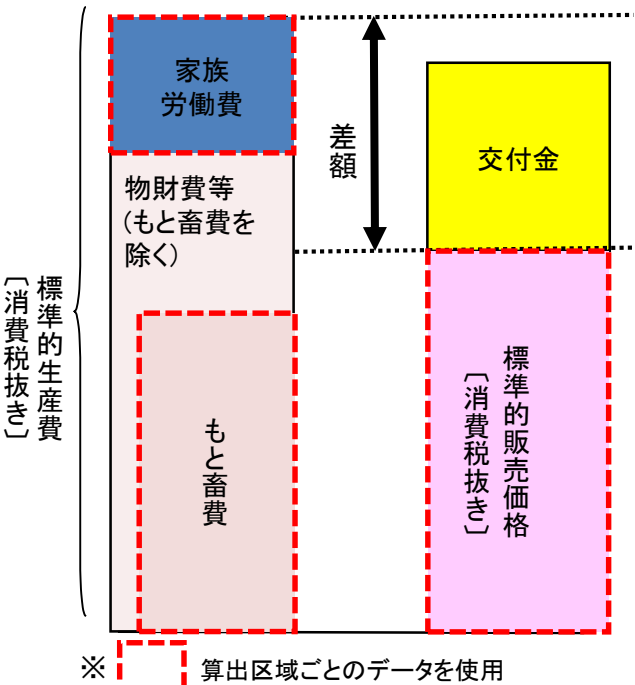
②補填割合 標準的販売価格と標準的生産費の差額の9割
- ③対象品種 肉専用種、交雑種、乳用種(3区分)

④対象者 肥育牛生産者

《31年度所要額》 977億円

交付金交付状況(令和元年7月)

(円／頭)



	肉専用種																					
	北海道	青森県	岩手県		宮城県	秋田県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県	新潟県	富山県	石川県			福井県
			日本短角種以外	日本短角種																		
標準の販売価格①	1,182,630	1,183,808	1,206,765	740,937	1,254,497	1,262,567	1,250,032	1,233,930	1,236,786	1,241,587	1,232,043	1,234,678	1,231,396	1,245,804	1,243,846	1,243,868	1,245,209	1,519,564	1,352,540	1,439,911		
標準の生産費②	1,210,337	1,184,150	1,205,915	739,145	1,227,477	1,212,629	1,217,532	1,225,465	1,197,181	1,167,774	1,197,490	1,227,601	1,157,768	1,220,376	1,221,163	1,236,117	1,189,486	1,198,939	1,183,300	1,181,265		
差額③ (③=①-②)	▲ 27,707	▲ 342	850	1,792	27,020	49,938	32,500	8,465	39,605	73,813	34,553	7,077	73,628	25,428	22,683	7,751	55,723	320,625	169,240	258,646		
概算払交付金④ (④=③×0.9-4,000)	20,936	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
交付後損益 (③+④)	▲ 6,770.7	▲ 342.0	850	1,792	27,020	49,938	32,500	8,465	39,605	73,813	34,553	7,077	73,628	25,428	22,683	7,751	55,723	320,625	169,240	258,646		
生産者負担金	16,000	8,000	6,000	6,000	6,000	13,000	13,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	10,000	11,000	16,000	13,000	6,000	6,000	6,000	6,000		
	肉専用種																					
	愛知県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	香川県	愛媛県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	二以上の 都道府県					
標準の販売価格①	1,232,001	1,186,877	1,208,251	1,232,140	1,189,136	1,209,537	1,294,300	1,223,474	1,176,026	1,235,057	1,226,044	1,208,531	1,134,208	1,274,812	1,246,631	1,191,260	1,328,576	770,912	462,442			
標準の生産費②	1,206,362	1,229,724	1,208,187	1,162,655	1,192,262	1,210,860	1,183,208	1,167,679	1,231,763	1,234,495	1,227,285	1,179,465	1,229,679	1,215,267	1,248,423	1,196,658	1,223,149	767,315	502,111			
差額③ (③=①-②)	25,639	▲ 42,847	64	69,485	▲ 3,126	▲ 1,323	111,092	55,795	▲ 55,737	562	▲ 1,241	29,066	▲ 95,471	59,545	▲ 1,792	▲ 5,398	105,427	3,597	▲ 39,669			
概算払交付金④ (④=③×0.9-4,000)	-	34,562	-	-	0	0	-	-	46,163	-	0	-	81,924	-	0	858	-	-	31,702			
交付後損益 (③+④)	25,639	▲ 8,284.7	64	69,485	▲ 3,126.0	▲ 1,323	111,092	55,795	▲ 9,573.7	562	▲ 1,241.0	29,066	▲ 13,547.1	59,545	▲ 1,792.0	▲ 4,539.8	105,427	3,597	▲ 7,966.9			
生産者負担金	6,000	6,000	14,000	6,000	12,000	7,000	6,000	6,000	21,000	11,000	13,000	13,000	27,000	7,000	18,000	6,000	6,000	17,000	19,000			

注：青森県、広島県、山口県、長崎県及び鹿児島県については、標準的販売価格が標準的生産費を下回るが、その差額の9割が4,000円/頭未満であるため、概算払は行わない(9月分の支払時に精算払を実施)。

肉用子牛対策の概要

- ・ 肉用子牛生産の安定を図るため、子牛価格が保証基準価格を下回った場合に生産者補給金を交付(肉用子牛生産者補給金制度)
- ・ 従来、肉用牛繁殖経営支援事業との2段階の仕組みにより支援していたが、TPP等関連政策大綱に基づき、肉用子牛生産者補給金制度に一本化し、TPP11発効の平成30年12月30日から適用

肉用子牛生産者補給金制度

- ・ 肉用子牛の平均売買価格(四半期ごとに算定)が保証基準価格を下回った場合に、その差額の10/10を国から生産者補給金として交付
- ・ さらに平均売買価格が合理化目標価格を下回った場合には、その差額の9/10を生産者積立金から生産者補給金として交付

保証基準価格及び合理化目標価格(令和元年度)(単位:千円/頭)

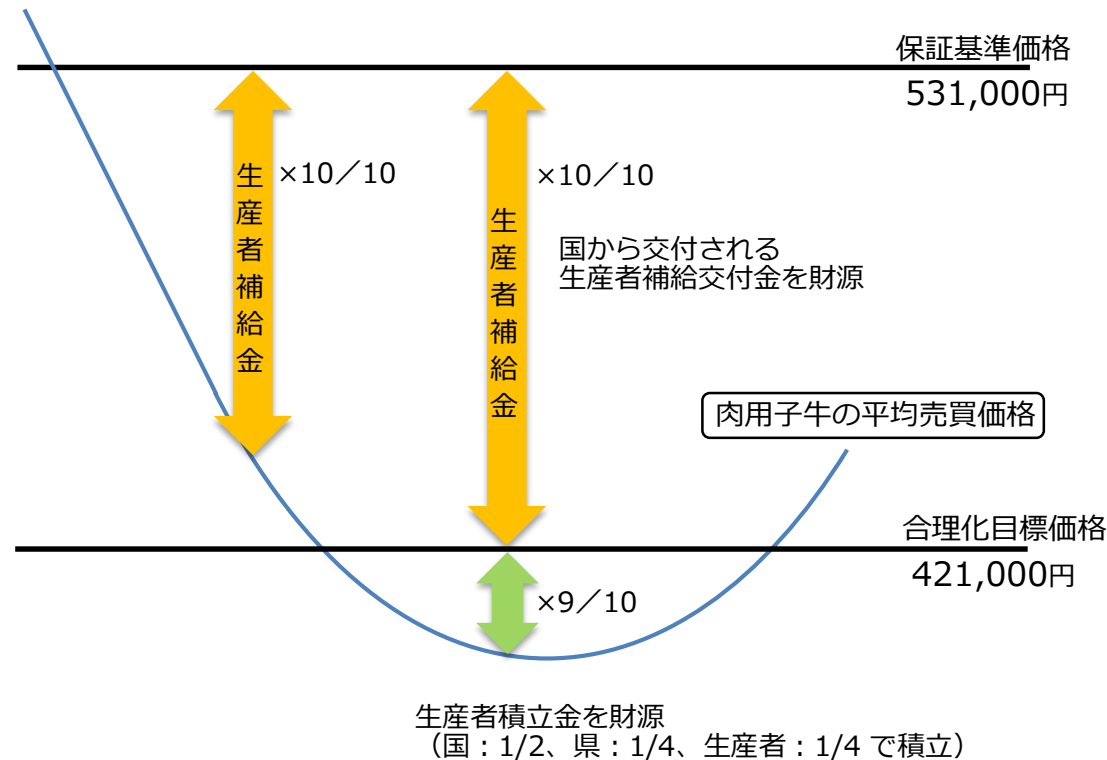
	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	531	489	314	161	269
合理化目標価格	421	388	249	108	212

[生産者積立金]

- ・ 負担割合 国:1/2、県:1/4、生産者:1/4
- ・ 1頭当たりの生産者積立金(うち生産者負担金)

黒毛和種: 1,200円/頭 (300円/頭)
 褐毛和種: 4,600円/頭 (1,150円/頭)
 その他肉専用種: 12,400円/頭 (3,100円/頭)
 乳用種: 6,400円/頭 (1,600円/頭)
 交雑種: 2,400円/頭 (600円/頭)

【黒毛和種の場合】



《31年度所要額:662億円》

世界の牛肉需給

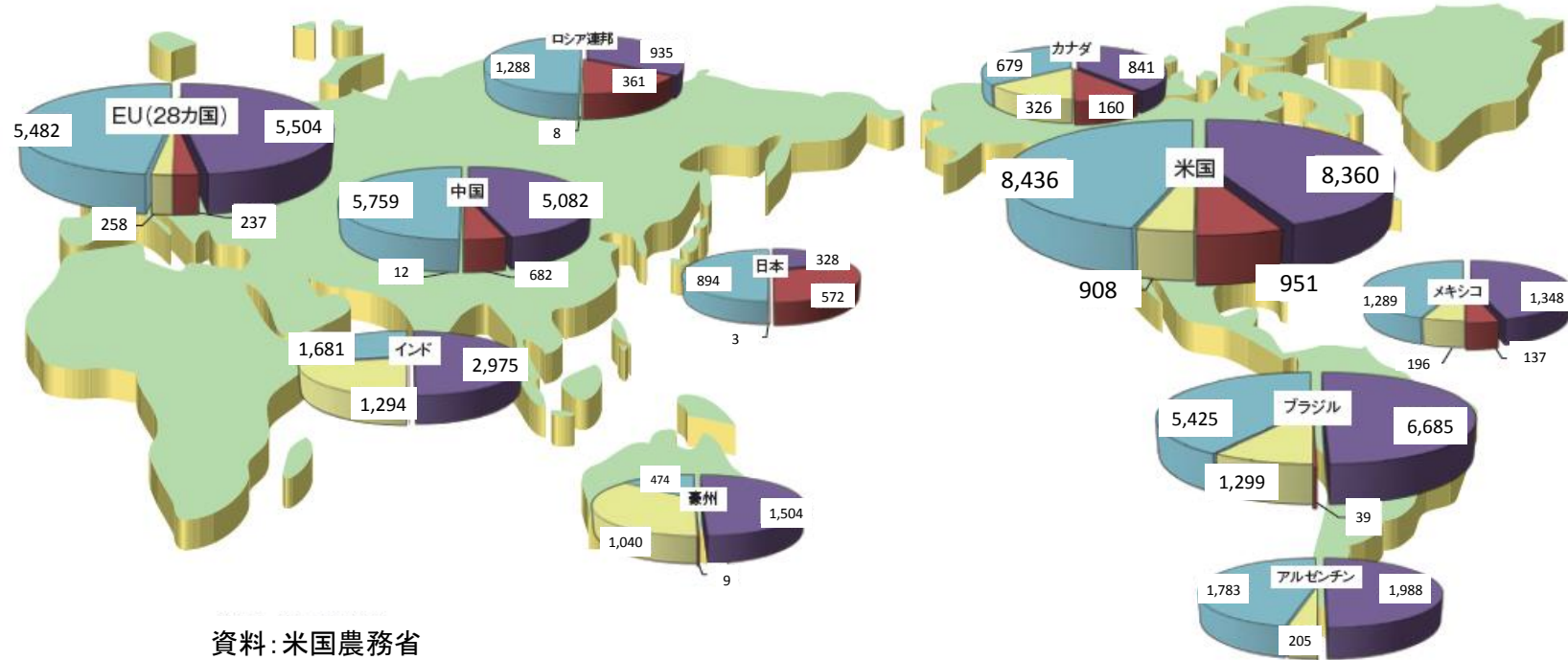
<牛肉>

順位	項目	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	輸入量 (シェア)
1	米国	(24%)	ブラジル (23%)	米国 (30%)
2	ブラジル	(19%)	インド (23%)	中国 (22%)
3	EU	(15%)	豪州 (19%)	日本 (18%)
4	中国	(14%)	米国 (16%)	ロシア (11%)
5	インド	(8%)	カナダ (6%)	EU (8%)

牛 肉



消費量(千トン) 生産量(千トン)
輸出量(千トン) 輸入量(千トン)



資料: 米国農務省

注: 2017年データを基に作成、数量は部分肉ベース

○牛肉輸入量の推移

(部分肉ベース、単位:トン)

年 度	合 計	米 国	TPP11					その他
				豪 州	NZ	カナダ	メキシコ	
7	658,365	314,544	340,291	307,936	5,420	26,935	—	3,530
8	611,241	277,400	326,292	296,149	6,753	23,389	—	7,550
9	658,966	302,529	353,436	320,179	22,062	11,195	0	3,001
10	681,791	327,849	351,817	319,029	18,486	14,301	0	2,126
11	682,596	331,564	346,533	314,140	13,979	18,413	0	4,500
12	738,415	358,566	373,233	338,046	14,364	20,823	0	6,617
13	607,540	285,344	321,547	285,155	15,250	21,140	1	650
14	534,012	240,144	293,409	262,486	11,239	19,676	7	459
15	520,096	201,052	318,435	294,602	21,252	2,574	8	608
16	450,363	0	447,797	410,219	34,819	0	2,760	2,565
17	458,103	662	453,538	406,218	39,779	115	7,426	3,903
18	467,237	12,236	453,498	409,870	35,224	2,517	5,887	1,503
19	463,122	36,548	425,196	380,226	33,634	3,478	7,859	1,377
20	469,642	56,407	412,377	365,710	32,142	4,874	9,650	858
21	475,426	73,823	401,327	355,488	26,940	9,650	9,249	276
22	511,675	98,594	412,612	352,248	33,228	13,290	13,846	469
23	516,189	124,083	391,431	334,662	29,239	10,252	17,278	674
24	505,720	131,602	373,586	309,020	31,187	11,201	22,179	532
25	535,546	201,138	333,831	277,746	28,255	12,218	15,612	576
26	516,540	186,540	329,084	276,858	23,301	15,794	13,131	917
27	487,475	163,948	322,137	289,283	14,550	8,621	9,683	1,390
28	526,065	207,723	317,129	277,631	17,599	14,735	7,165	1,213
29	572,134	230,823	339,722	297,899	13,420	18,279	10,125	1,589
30	619,971	254,529	364,466	310,097	16,421	24,924	13,024	976

資料: 財務省「日本貿易統計」

注1: 輸入量のうち枝肉輸入分については、部分肉換算量を示す。

○牛肉主要輸入国のCIF単価

(単位: 円/kg)

年度	総計CIF			米国			TPP11			うち豪州		
		チルド	フローゼン		チルド	フローゼン		チルド	フローゼン		チルド	フローゼン
12	390	513	272	466	679	317	319	398	211	315	389	200
13	418	550	296	478	688	333	365	458	252	364	450	241
14	385	525	256	417	619	278	358	467	232	360	461	225
15	444	598	307	499	674	362	409	556	267	411	552	260
16	461	611	316	—	—	—	461	611	315	465	608	305
17	486	643	331	797	808	595	486	643	330	487	637	312
18	495	670	335	662	743	556	491	667	330	490	662	315
19	502	694	343	636	730	524	490	690	329	491	687	315
20	459	602	348	566	656	443	444	592	338	445	587	330
21	394	518	296	490	572	413	377	506	276	375	503	264
22	404	535	310	467	582	358	389	522	300	390	518	291
23	405	543	310	457	561	336	389	534	304	390	531	298
24	445	589	342	531	627	411	415	570	324	415	564	310
25	508	683	392	547	725	411	483	653	381	484	644	371
26	633	813	503	692	894	545	599	765	478	596	756	459
27	654	872	493	670	871	511	646	872	483	644	867	473
28	573	786	395	576	747	370	572	819	407	576	819	403
29	613	809	436	644	793	419	591	825	443	596	822	444
30	635	846	463	669	850	466	612	842	461	614	838	456

年度	うちNZ			うち カナダ			うち メキシコ		
		チルド	フローゼン		チルド	フローゼン		チルド	フローゼン
12	355	556	283	355	635	254	—	—	—
13	361	597	294	381	613	299	947	—	947
14	390	650	314	310	572	237	845	822	850
15	379	700	325	431	625	289	1,686	—	1,686
16	400	726	359	—	—	—	748	826	704
17	429	782	380	903	901	2788	722	868	641
18	461	761	403	719	761	549	656	816	543
19	456	758	390	619	706	485	546	817	476
20	415	691	353	530	640	451	483	724	444
21	365	566	304	445	583	384	417	528	402
22	389	567	338	387	603	305	363	511	348
23	415	579	358	378	587	301	328	486	314
24	440	656	368	411	609	364	392	554	378
25	535	797	461	402	676	364	431	689	386
26	658	897	586	508	797	463	671	911	597
27	776	986	669	508	834	434	635	935	528
28	666	918	550	403	691	340	504	769	380
29	760	985	599	427	647	378	516	874	400
30	763	1013	600	494	701	426	583	893	480

資料: 財務省「貿易統計」

注1: CIF価格のうち、枝肉輸入分については、部分肉換算量を用いて算出。

主要輸入先国の牛肉生産量の推移

単位:千トン

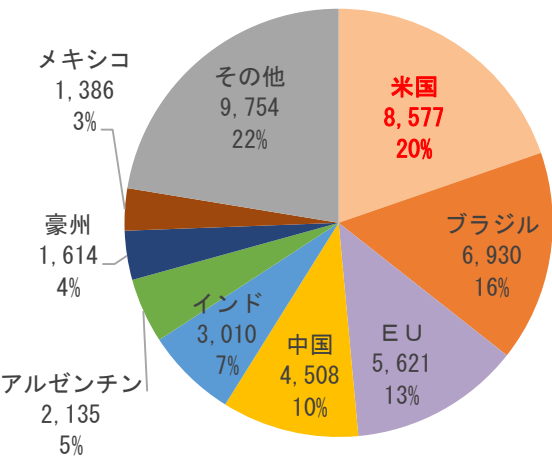
年次/国名	日本	米国	TPP11							EU
				豪州	カナダ	NZ	メキシコ	チリ	その他	
2008	364	8,422	4,482	1,497	913	442	1,167	168	296	5,664
2009	362	8,464	4,453	1,474	868	446	1,193	147	324	5,588
2010	360	8,273	4,541	1,490	893	447	1,221	148	343	5,705
2011	350	8,379	4,473	1,490	799	433	1,263	134	355	5,633
2012	363	8,341	4,453	1,506	742	425	1,274	138	367	5,398
2013	356	8,252	4,605	1,651	739	439	1,265	144	366	5,179
2014	351	8,189	4,836	1,817	770	438	1,279	157	375	5,215
2015	337	7,544	4,930	1,863	766	473	1,292	158	378	5,387
2016	325	8,029	4,590	1,621	652	471	1,315	151	380	5,512
2017	328	8,335	4,375	1,434	616	449	1,349	140	387	5,495

資料:FAOSTAT(数値は部分肉ベースに換算したもの。)

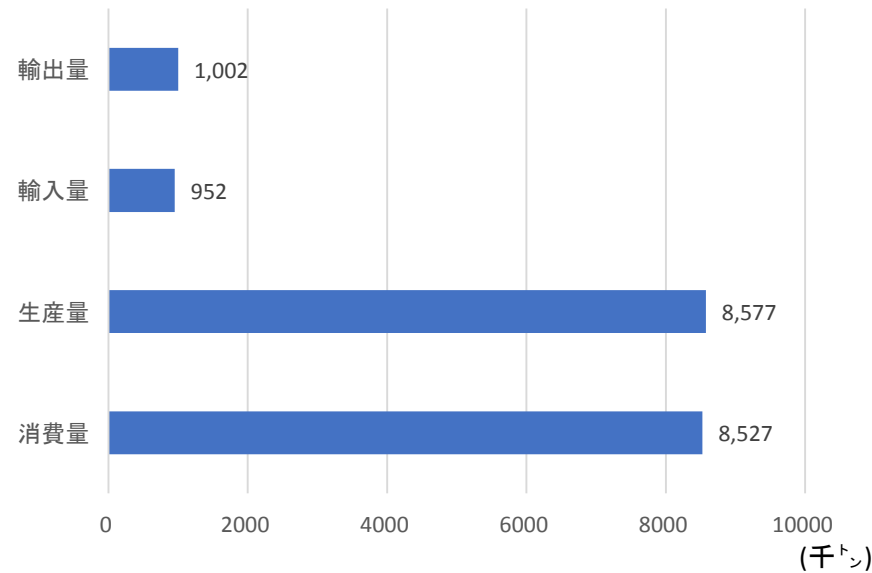
注:TPP11はTPP11参加国の合計値

- 米国の牛肉生産量は世界の約2割。
- 生産量のほとんどを国内で消費し、不需求部位（主にバラ）を輸出（生産量の約1割）。

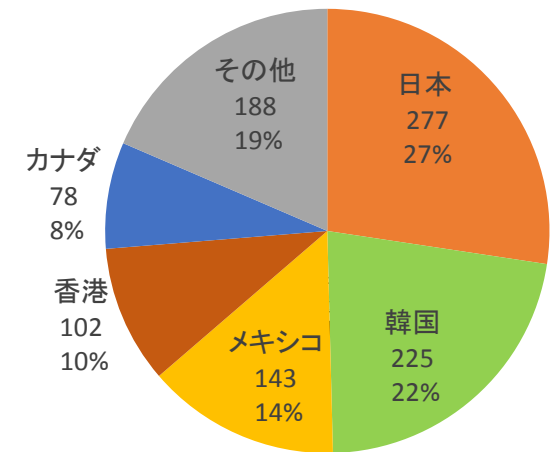
世界の生産量
43,535千トン（2018年）



米国の需給状況（2018年）



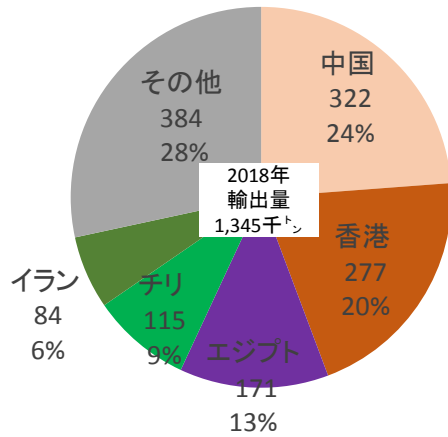
主な輸出先国（2018年）
1,013千トン



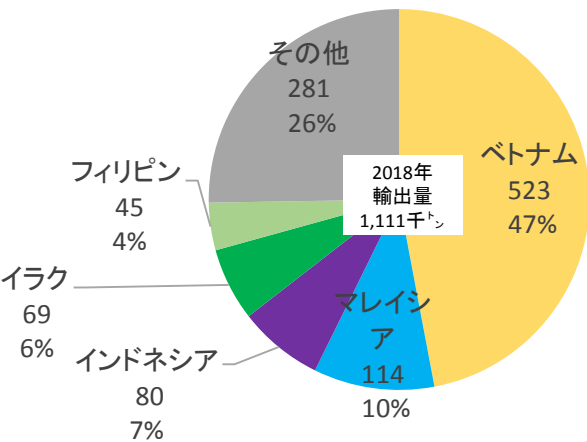
出典：USDA「Foreign Agricultural Service」のデータを部分肉ベース換算した値。（生産量及び米国の需給データ）
Global Trade Atlas（米国の輸出先別輸出量）

牛肉主要輸出国の輸出動向について(2018年)

ブラジルの牛肉国別輸出力



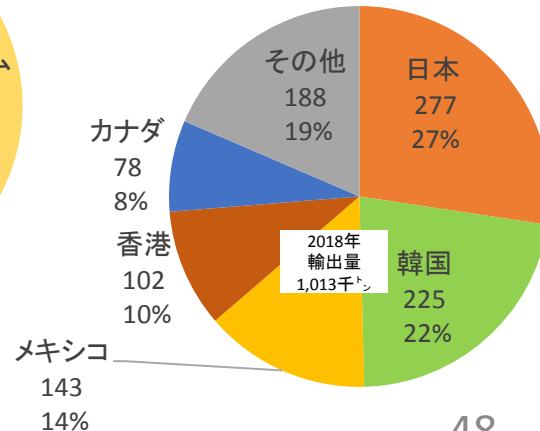
インドの牛肉国別輸出力



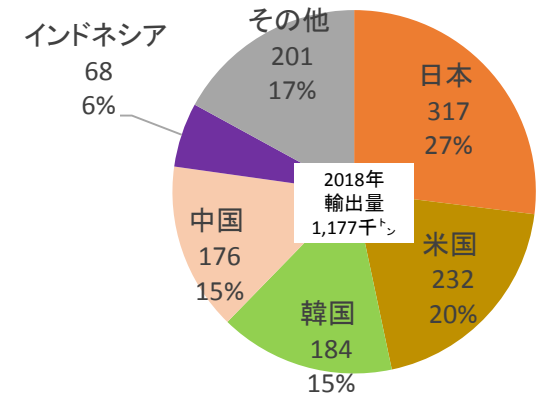
順位	国名	輸出量	国内生産量に占める割合
1	ブラジル	1,458	21%
2	豪州	1,163	72%
3	インド	1,089	36%
4	米国	1,002	12%
5	NZ	443	94%
6	カナダ	351	40%
7	アルゼンチン	356	17%
8	ウルグアイ	326	81%
9	パラグアイ	256	63%
10	EU	246	4%

資料: USDA「Livestock and Poultry; World Market and Trade」

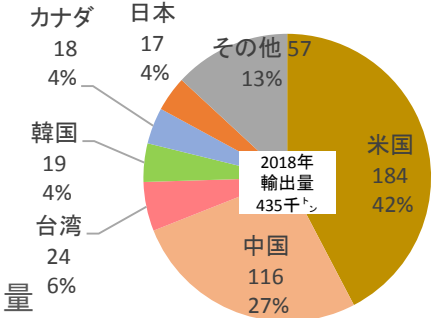
米国の牛肉国別輸出力



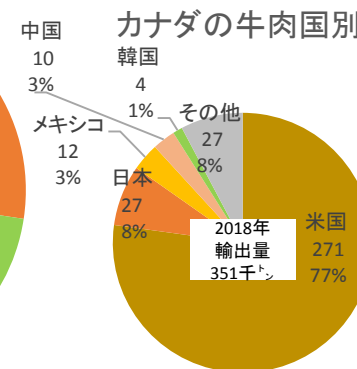
豪州の牛肉国別輸出力



NZの牛肉国別輸出力



カナダの牛肉国別輸出力



資料(円グラフ): Global Trade Atlas(対象HSコードは0201, 0202)